

製品安全データシート MSDS

No. CR-1012-1

作成日: 2010年12月24日

改定:

製品: 建築窓ガラス用フィルム

会社名: 株式会社サイバーレップス

住所: 千葉県流山市流山8-1315-1

電話番号: 04-7150-1700

FAX番号: 04-7150-1719

1. 製品及び会社情報

製品名

個別製品名については、特記事項を参照ください。

2. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 混合物

構成:

ポリエチレンテレフタレートフィルム(50ミクロン)

アクリル樹脂感圧接着材

ポリエチレンテレフタレート剥離フィルム(25ミクロン)

剥離フィルムは、施工時に剥がし、廃棄するものです。

成分及び含有量

成分	CAS No.	含有量 (%)
アクリル樹脂感圧接着材を塗布したポリエチレンテレフタレートフィルム ポリエチレンテレフタレートフィルムに、金属及び無機物質薄膜を形成した製品を含む。 化審法番号: 対象外	混合物	100%
主要基材であるポリエチレンテレフタレートのCAS登録番号: 25038-59-9 同上官報公示整理番号(化審法、安衛法): 7-1022		
危険有害成分	該当しない	

3. 危険有害性の要約

最重要危険有害性及び影響

有害性	通常の状態では、人の健康に対する有害性は極めて低い。
物理的及び化学的危険性	通常の状態では危険な反応や火災爆発を起こすことは無いが、消防法で指定可燃物合成樹脂類であり、発火源があれば燃える。
特定の危険有害性	通常の状態では特に有害性は無い。燃焼などの高温でアセトアルデヒド、一酸化炭素等の有害ガスを発生する可能性がある。
分類の名称 (分類基準は日本方式)	【GHS分類】 本製品は、成型品なので対象外
建築基準法で、居室に使用する仕上げ材料にはホルムアルデヒドの放散量による使用面積の規制がある。 JISA6921(壁紙)でホルムアルデヒド放散量の規格値が0.2mg/L以下となっている。	弊社製品「建築窓ガラス用フィルム」に関し、第三者公的機関によるホルムアルデヒド放散量の試験を行った結果、0.0mg/L(検出されず)の結果を得た。 これにより、使用面積の規制は受けないこととなった。

4. 応急処置

吸入した場合	フィルムを吸入する事故は想定不能、従って応急措置は不要。
皮膚に付着した場合	応急措置は不要。
目に入った場合	通常の状態では特異物が入った場合と同じように清浄な水でよく洗い、異常がある場合は医師の診断を受ける
飲み込んだ場合	出来るだけ吐き出させ、異常がある場合は医師の診断を受ける

5. 火災の処置

消化剤	水、粉末消化剤、泡沫消火剤
特有の危険有害性	不完全燃焼した場合、アセトアルデヒドや一酸化炭素等の有害ガスを発生する
特有の消化法	一般的消化方法を用いて、消火活動は風上から行う。
消化を行う者の保護	燃焼時、有害ガスを含む恐れがあるため、消火作業を行う場合自給式の呼吸装置等の装備が望ましい。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	成型品なので、通常の状態では、流体として、漏出することはない。 余剰フィルム及び剥がしフィルムは施工後廃棄するものであるが、フィルム先端で皮膚等を傷つけたり、転倒したりする恐れがあるので、速やかに回収し、破棄する。
環境に対する注意事項	環境への影響は小さいが、長時間残留すると考えられるので環境中に廃棄しない。
回収方法	フィルム屑の場合、かき集めるか掃除機で集めて廃棄又は焼却する。 フィルム屑を回収する場合際は、火花を発生しない安全な器具を使用する。

7.取り扱い及び保管の注意

取り扱い
技術的対策

加工中に静電気を発生することがあるので、静電気除去装置を必要な場所にて適宜設置する。
フィルム先端が鋭くなり皮膚等を傷つける恐れがあるので、保護用具を着用する。
人が転倒しないように歩行域からフィルムを取り除くように留意する。
またロール状フィルムは重量物であるため落下に注意する。
通常の倉庫で保管する。
紙、ポリエチレンフィルム、段ボール包装

安全取り扱い注意事項

保管 適切な保管場所
安全な容器包装材料

8.暴露防止及び保護装置

設備対策
保護具 呼吸器の保護具
手の保護具
目の保護具
皮膚及び身体の保護具

適用しない
通常の状態では、呼吸保護具が必要な程の粉塵発生は予想されない
切り口が鋭利なので、保護手袋の着用が望ましい。
適用しない。
適用しない。

9.物理的及び化学的性質

外観など
PH
融点()
引火点()
発火点()
分解温度
爆発限界
密度 (g/cm³)
溶解度(水に対して)

フィルム状固体、有色又は透明、無臭
適用しない
255 ~ 265度C *
*ポリエチレンテレフタレートとして
適用しない
適用しない
適用しない
適用しない
1.4+/-0.04 * *ポリエチレンテレフタレートとして
不溶

10.安定性及び反応性

安定性
反応性
避けるべき条件
避けるべき材料
危険有害な分解生成物

常温では安定である、危険な反応は起こらない。
溶解などの高温では一部熱分解する。強酸化剤と反応する危険性がある。
高熱
強酸化剤
燃焼・融解などの高温で
アセトアルデヒド、一酸化炭素等の有毒ガスを発生する可能性がある。

11.有害性情報

注:) 正常に使用している状態とは、ガラス面に貼付して使用している状態を意味しています。

急性毒性(50%致死量含む)
皮膚腐食性・刺激性
目に対する重篤な損傷・危険性
呼吸器感作性又は皮膚感作性
生殖細胞変異原性
発がん性
生殖毒性
特定標的臓器・全身毒性
呼吸性呼吸器有害性

急性毒性は予想されない。
皮膚に付着した場合の有害性は予想されない。
正常に使用している状態では、目に入ることは予想されない。
正常に使用している状態では、有害性は予想されない。
正常に使用している状態では、有害性は予想されない。
正常に使用している状態では、有害性は予想されない。
正常に使用している状態では、有害性は予想されない。
正常に使用している状態では、有害性は予想されない。
正常に使用している状態では、有害性は予想されない。
正常に使用している状態では、有害性は予想されない。

12.環境影響情報

残留性・分解性
生態蓄積性
土壤中の移動性

未評価(環境中に長時間残留すると考えられる。)
未評価
未評価

13.廃棄上の注意 残余廃棄物

焼却
埋立
汚染容器及び包装

関連法規に基づき産業廃棄物として自社で適正に処理するか、産業廃棄物処理業者に処分を委託する。
廃棄物の処理及び清掃に関する法律に従って、公認の産業廃棄物処理業者又は地方公共団体がその処理を行っている場合はその団体に委託して処理する。
残余廃物と同様とする。

14.輸送上の注意

国連番号
国連分類
輸送の特定の安全対策及び条件

国連分類基準に該当しない
国連分類基準に該当しない
重量物の為、転倒・落下がないように積み込み荷崩れ防止を確実にを行う。

15.適用法令

日本国内法規制(主な適用法令)

該当しない

16.その他の情報

特記事項1 記載内容の取り扱い:

この製品安全データシートの記載内容は、発行時において正確であると信じられ、且つ、入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますので、新しい知見により改定されることがあります。

注意事項は通常取り扱いを対象としたものであって、特別の取り扱いをする場合は用途用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。記載内容は情報提供を主目的とするものであって、保証するものではありません。

特記事項2 製品名称:

GS50K, GS50KLR, RS15A, RS20A, RS35A, RS50A, RS60A, RS70A,
SpG20, SpG40, SpG60, SpG70, SL7480, SS7090, SL999,
WM-NF, WM-EP, W-Out, NL-NF, BL-NF.
尚、製品名の最後にEx文字が付記されているものも含まれます。